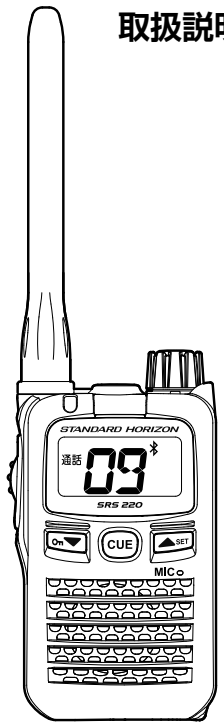


SRS 220A Bluetooth®

SRS 210A

SR 200A

取扱説明書



お買い上げいただき、ありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
・このトランシーバーは国内専用モデルです。海外では使用できません。
・本体背面に貼ってある“証明ラベル”を剥がしたり、分解や改造を行うことは法律で禁止されています。
・他人の会話を聞いて、会話の内容を漏らしたり窃取することは法律で禁止されています。

2108I-CS



電池の入れかた

- ① ロックレバーをスライドしてフタを開けます。
- ② 防水パッキンにキズ、劣化、外れ、汚れが無いことを確認してください。
オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”または、市販の単3形アルカリ乾電池を“-”側から入れます。
- ③ “カチッ”と音がするまでフタを押し込んで閉めます。

- オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”の充電のしかたは、オプションの急速充電器“SAD-3915A”の取扱説明書をご覧ください。
- 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池“SBR-17MH”またはアルカリ乾電池を取り外してください。
- 電池を交換する時は必ず電源を切ってください。
- オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”または市販の単3形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。故障や火災の原因になる場合があります。

■ 使用時間の目安

ニッケル水素電池“SBR-17MH” ➡ 約 36 時間*
アルカリ乾電池 ➡ 約 33 時間*

※ 送信 6 秒、受信 6 秒、待ち受け 48 秒、LED インジケータ設定はオフの測定条件です。
使用時間は目安です。実際に使用できる時間は、使いかたや周囲の温度などによって異なります。

電池の残量は画面にアイコンで表示されます。“各部の説明”の“電池残量表示”を参照してください。

付属品

- トランシーバー本体
- ベルトクリップ（取付け用ネジも含む）
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP68 相当（防塵等級 6*¹、防水等級 8*²）の防塵、防水性能を有しています。この性能を永永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

- ボタンのラバー、SP/MIC 端子のラバー、底面フタなどに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
- 海水砂泥などが付いた時は、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- 本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
- 本機は、水中での使用はできません。

※ 1：粉塵が内部に侵入しない。

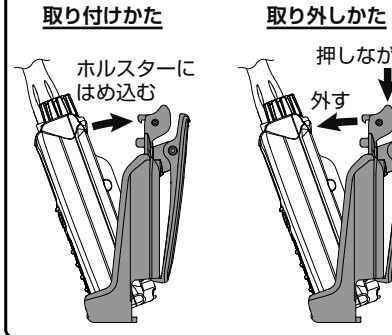
※ 2：水深 1.5m に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

正しくご使用いただくために

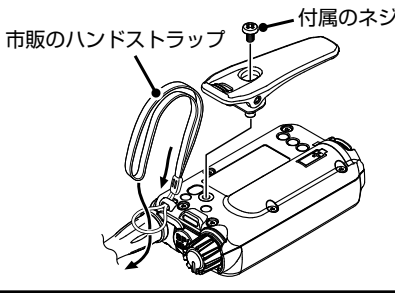
- 本機にヘッドセットやマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
- オプションのニッケル水素電池“SBR-17MH”を充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。
- 直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
- トランシーバーを分解・改造することは電波法で禁じられています。
- 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
- 磁気カードなどを本機に近づけないでください。磁気カードの内容が消去される場合があります。
- トランシーバー内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

各部の説明

ワンタッチリリースホルスター SHB-22 (オプション) の使いかた



付属のベルトクリップの取り付けかた
故障の原因になりますので、付属のネジ以外は使用しないでください。



SP/MIC ジャック

- オプションのスピーカーマイクなどを接続します。
- 使用しない時は本機の防塵・防水性能を保つため、ラバーキャップをしっかりと取り付けてください。

LED インジケータ

送信：赤点灯
受信：緑点灯
CUE 受信：オレンジ点滅

PTT（通話）スイッチ

送信するときに押します。

[On▼] ボタン

運用チャンネルをダウン方向に切り替えます。
押しながら電源を入ると [On▼]/[CUE]/[▲SET] ボタンを押しても動作しないようにロックします。
もう一度押しながら電源を入るとロックは解除されます。

アンテナ

電源 / 音量ツマミ

右にまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
電源を切るときは“カチッ”というまで左にまわします。
なお、音量ツマミを最小にしても音は完全には消えません。

[CUE] ボタン

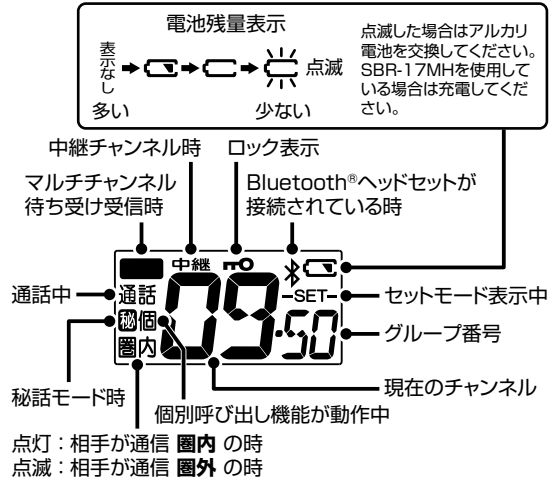
受信側の音量が下がっていても、設定音量でアラームを鳴らして緊急連絡や重要案件の通知を行います。

[▲SET] ボタン

運用チャンネルをアップ方向に切り替えます。
押しながら電源を入ると、機能設定（セットモード）が行えます。

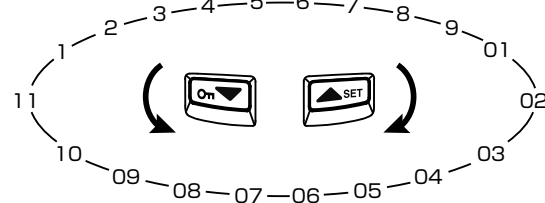
マイク

スピーカー



基本的な通話のしかた（ノーマルモード）

- ▲または▼ボタンを押すと、チャンネルは下記のように変わります。



- 3 分間連続して送信し続けると送信は自動的に停止します。送信が停止する 30 秒前になると、画面に数字でカウントダウン表示され、送信が停止する 10 秒前には、「ピピッ」と警告音が鳴ります。なお、送信が停止した場合、その後の 2 秒間は通話（PTT）スイッチを押しても警告音が鳴り送信できません。
- 相手の信号を受信している時は送信できません。LED インジケータが緑色に点灯している時は、通話（PTT）スイッチを押しても「ブーッブーッ」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

① 電源を入れる

電源 / 音量ツマミをまわして電源を入れて、聞きやすい音量に調節します。
なお、音量ツマミを最小にしても音は完全には消えません。

② チャンネルをあわせる

[On▼] または [▲SET] ボタンを押して相手と同じチャンネルにします。

③ 押しながら話す

通話（PTT）スイッチを押しながらマイクに向かって話します。

- ・ LED インジケータが赤色で点灯し、画面に“通話”が表示されます。
- ・ 通話（PTT）スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。
- ・ 信号を受信すると LED インジケータが緑色に点灯します。

④ 電源を切る

電源 / 音量ツマミを“カチッ”というまで左にまわします。

[On▼][▲SET] ボタンを押してもチャンネルが変わらないようにする

[On▼] や [▲SET] ボタンが何かにぶつかり、チャンネルが変わってしまうトラブルを防ぐことができます。

① 一度電源を切る

電源 / 音量ツマミを“カチッ”というまで左にまわします。

② [On▼] ボタンを押しながら電源を入れる

“no”マークが表示され [On▼]/[CUE]/[▲SET] ボタンがロックされます。

ロックを解除する

もう一度電源を切り [On▼] ボタンを押しながら電源を入ると、ロックは解除されます。

補足

“no”マークが表示されている時に [On▼] と [▲SET] ボタンを同時に押すと、チャンネル表示が“LOCK”の表示に変わります。もう一度同じ操作をすると、チャンネル表示に戻ります。



操作した時に鳴る音の音量調整

トランシーバーを操作をした時に鳴る「ビッ」というピーブ音の音量を調節できます。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ SET] ボタンを押して“BEEP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押してピーブ音の音量を選びます。

1/2/3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。
L1/L2/L3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。また音量調節ツマミに連動してピーブの音量も変わります。
OFF : ピーブ音は鳴らなくなります。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



Bluetooth® ヘッドセットを使う（SRS220△/SRS220S△のみ）

SRS220△/SRS220S△は、オプションの Bluetooth® ヘッドセット“SSM-BT10”を使用したワイヤレス通信が可能です。ヘッドセットの送信ボタンによる送信に加えて、話をすると自動的に送信状態になる“音声自動送信（VOX）機能”にも対応していますので、ケーブルが無い完全なハンズフリー運用ができます。

- 注意**
- 無線 LAN や電子レンジなどからの影響で Bluetooth® 通信に雑音が入る場合があります。雑音が入る場合は、無線 LAN や電子レンジの使用を中止したり、これらの機器との距離を離したり、Bluetooth® ヘッドセットと無線機の距離をできるだけ近づけてください。
 - Bluetooth® ヘッドセットと無線機を、体を挟むようにそれぞれ反対側に装着した場合、Bluetooth® 通信に雑音が入る場合があります。Bluetooth® ヘッドセットと無線機は体の同じ側に装着することをお勧めします。

■ Bluetooth® ヘッドセットを使う

この設定は一度だけです。次回からはトランシーバーとヘッドセットの電源を ON にするだけで、自動で接続されます。

SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを3秒以上押してペアリング（接続）モードにします。

マルチファンクションボタンを3秒以上押す

赤と青の点滅になります

① 一度電源を切る

電源/音量ツマミを“カチッ”というまで左にまわします。

② [CUE] ボタンを押しながら電源を入れる

“SRCH”の表示になり“*”が点滅します。

③ 接続するヘッドセットを選ぶ

[ ▼] または [ SET] ボタンで選択します。



④ PTT（通話）ボタンを押す



トランシーバーとヘッドセットが接続されると表示します。

設定は完了です。

送信する時はヘッドセットのマルチファンクションボタンを押してください。もう一度押すと受信に戻ります。

VOX 機能を使用することによって、マルチファンクションボタンを押さなくても自動で送信することができます。

- 補足**
- VOX 機能使用中は、マルチファンクションボタンを押すことで一時的に VOX 機能を OFF にすることができます。OFF にした VOX 機能は、マルチファンクションボタンを押すか電源を入れ直すと再び ON になります。
 - VOX 機能が一時的に OFF の時は“—”が表示されます。



画面の表示を消す

周りの人に使用しているチャンネルがわからないように、画面の表示を“—”にすることができます。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ SET] ボタンを押して“DISP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“2”を選びます。

ON : 常に画面は表示された状態になります。
2 : トランシーバーの操作が終わってから約2秒後に画面の表示が“—”になります。トランシーバーの操作を行うと再び画面が表示されます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ Bluetooth® ヘッドセットを使うのをやめる

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“BLTH”の表示にします。

“BLTH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“OFF”を選びます。再び Bluetooth® ヘッドセットを使いたい時は“ON”または“SAVE”を選びます。

ON : Bluetooth® 機能が動作し Bluetooth® ヘッドセットを使用できます。
SAVE : Bluetooth® 機能が動作し、更に Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくすることができます。VOX 機能を使用する場合、話を始めてから送信が始まるまで遅延が生じますので、話の始めが途切れる場合があります。
OFF : Bluetooth® 機能は動作しません。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



■ Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節する

本機に接続した Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節できます。相手から「声が小さい」と言われた時は“感度を高く”、「声が大きい」「声が割れて聞こえる」などと言われた時は“感度を低く”します。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“BTMG”の表示にします。

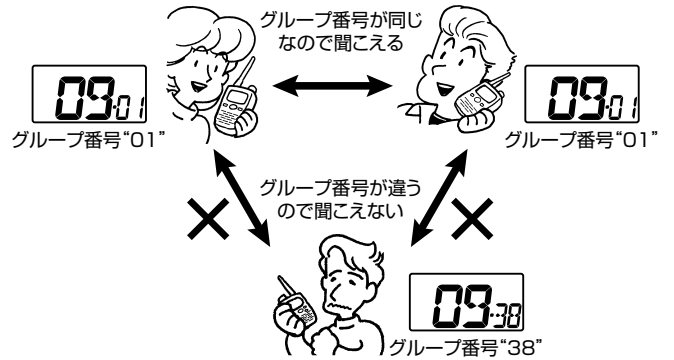
“BTMG”が表示されない場合は“BLTH”を表示させて“ON”または“SAVE”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押してマイクの感度を選びます。

=MG / 1（感度低い）～6（感度高い）
（“=MG”はトランシーバーのマイクと同じ感度になります）
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



グループモードの設定

「同じチャンネルで他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時は、あらかじめ同じグループ番号を決めた“グループモード”にすると仲間同士の音声だけが聞こえます。



■ グループコードを設定する

仲間同士で同じグループコードにします。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- “GRP”の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押して、続けて [ SET] ボタンを押します。
- “GRCD”の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード（GP01～GP50）にあわせます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。グループコードが設定され、画面に表示されます。



—グループコード

“基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

グループコードが不足した場合などは、108 種類の DCS コード（D017～D754）を使用できます。上記の手順7で“D017～D754”を選んでください。



—DCSコード

■ グループモードをやめる

- 上記と同じ操作を行い、手順4で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。ノーマルモードに戻ります。

音声で自動的に送信する（VOX 機能）

“音声自動送信（VOX）機能”を使用すると、話をすると自動的に送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻ることができます。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“VOX”の表示にします。

“VOX”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“1”～“7”を選びます。

1～7 : VOX 機能が動作します。“1”～“7”の数字は送信状態になる感度で、周囲の騒音が大きく話をしていないのに送信状態になる時は感度を下げて（設定の数値を小さく）ください。
OFF : VOX 機能は動作しません。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



使われていないチャンネルを自動で探す（オートチャンネルセレクト機能）

PTT（通話）スイッチを押すと、使われていないチャンネルを自動で探して、そのチャンネルで通話を行います。

- 補足**
- 相手のトランシーバも、オートチャンネルセレクト機能を ON にしてください。
 - 相手と同じグループコード（または DCS コード）に設定してください（左記の“グループコードを設定する”を参照してください）。
- 注意**
- 個別呼び出し、中継用チャンネル、マルチチャンネル待受機能時は動作しません。
 - オートチャンネルセレクト機能を“ON”にすると、スキャン機能、コールバック機能、ARTS 機能、エマージェンシー機能は“OFF”になります。

■ オートチャンネルセレクト機能を使えるようにする

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“ATCH”の表示にします。

“ATCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“ON”を選びます。

ON : オートチャンネルセレクト機能を ON にします。
OFF : オートチャンネルセレクト機能を OFF にします。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。画面のチャンネル表示が“AU”になります。



- 補足**
- PTT（通話）スイッチを押すと同時に、使用されていないチャンネルを自動で探しますので、PTT（通話）スイッチを押した後は、一呼吸おいてから話を始めてください。

■ オートチャンネルセレクト機能をやめる

- 上記と同じ操作を行い、手順5で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。オートチャンネルセレクト機能が OFF になります。

サブチャンネルセレクト機能

選択したチャンネルが使用中の場合、あらかじめ仲間同士で決めたもう1つのチャンネル（サブチャンネル）に自動的に切り替わり通話できます。PTT（通話）スイッチを押した時、信号がない場合は通常チャンネルで通話を行います。通常チャンネルに信号があった場合は警告音が鳴りますが、そのまま PTT（通話）スイッチを押し続けると約3秒後にサブチャンネルに移行して送信します。相手もサブチャンネルに自動で移行しますので通話を行うことができます。

- 電源を切ります。
- [ SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“SBCH”の表示にします。

“SBCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して“ON”を選びます。

ON : サブチャンネルセレクト機能を ON にします。
OFF : サブチャンネルセレクト機能を OFF にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ SET] ボタンを押して“S-CH”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して、サブチャンネルにしたいチャンネルを選択します。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ SET] ボタンを押して“S-GP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ ▼] または [ SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード（GP01～GP50）にあわせます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。



■ サブチャンネルセレクト機能をやめる

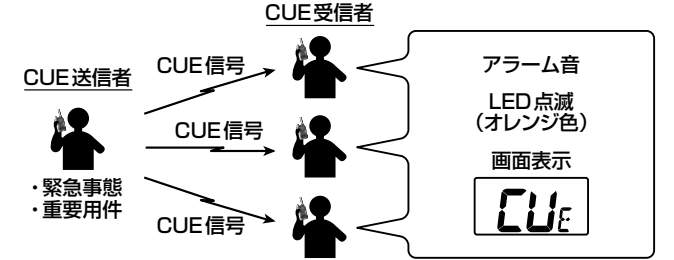
- 上記と同じ操作を行い、手順5で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。サブチャンネルセレクト機能が OFF になります。

特定小電力の旧機種との互換性に関して

“CUE 機能”、“個別呼び出し機能”、“クローン機能”は、SRS220AなどのAシリーズと旧機種 SRS220/SRS210/SR200 との間では動作しない場合があります。旧機種のソフトウェアのアップデートを行うことによりAシリーズとの互換性を持たせることができますので、必要な場合は当社国内営業部（電話：03-6711-4055）にお問い合わせください。

CUE（キュー）機能による緊急アラーム

グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく、設定した音量でアラームが鳴り、同時に LED インジケータがオレンジ色で点滅して、画面に“CUE”を表示させますので、相手が音量を下げたまま忘れていた場合でも、確実に緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。CUE を受信した時にトランシーバーの近くにいなかった場合でも、“CUE”の表示と LED インジケータの点滅が継続しますので、戻った時に緊急着信があったことがわかります。



CUE 緊急信号を送出する

[CUE] ボタンを 1 秒以上長押しすると「ビビピッ」と電子音が鳴り、CUE 緊急信号を送出します。

CUE 緊急信号を受信する

CUE 緊急信号を受信するとアラームが鳴り、画面表示と LED インジケータの点滅で知らせます。

補足

- ・[CUE] ボタンを 2 回続けて短押しすると「ビビッ」と電子音がして画面に約 2 秒間“CM-ON”が表示され、CUE 緊急信号を受信してもアラーム音が鳴らなくなります。再度同じ操作を行うと、アラーム音が鳴るようになります。
- ・PTT（通話）スイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手と通話することができます。
- ・“CUE”の表示と LED インジケータの点滅は、いずれかのボタンを押すと元の状態に戻ります。

注意

イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバーのスピーカーからアラームが鳴ります（下記の操作で、鳴らないようにすることができます）。

◎ アラーム音の種類と設定を変える

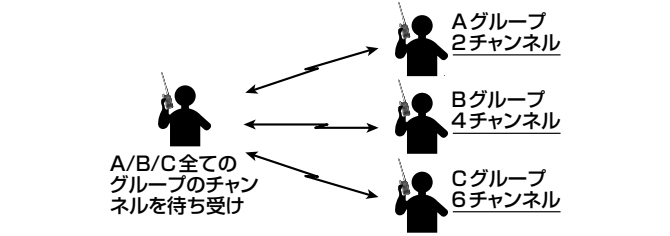
CUE 緊急信号を受信した時に鳴るアラーム音を 3 種類から選択できます。また、イヤホンやヘッドセットを接続している時に、トランシーバーのスピーカーからアラーム音を鳴らさないようにすることができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“CBP”の表示にして [CUE] ボタンを押します。“CBP”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押してアラーム音を設定します。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

表示	アラーム音	
SP-A	“ピロッ”	常にスピーカーからアラームが鳴ります。 イヤホンやヘッドセットからはアラームは鳴りません。
SP-B	“ピロッピロッ”	
SP-C	“ピロッピロッピロッピロッ”	
A	“ピロッ”	スピーカーまたはイヤホンやヘッドセットからアラームが鳴ります。
B	“ピロッピロッ”	
C	“ピロッピロッピロッピロッ”	

マルチチャンネル待ち受け機能

複数のチャンネルをスキャンしながら待ち受けを行い、信号が入ったチャンネルで通話を行うことができます。
この機能を使って、グループで異なるチャンネルを使用している状況で、グループの全てのチャンネルをモニターしながら通話を行うことができます。



注意

マルチチャンネル待ち受け中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 待ち受け受信するチャンネルを決める

待ち受け受信するチャンネルを最大 10 チャンネル登録できます。

- 待ち受け受信したいチャンネルにあわせませう。
[CUE] ボタンと[▲SET] ボタンを同時に押します。
待ち受けチャンネルとして登録され、画面左上に“■”が表示されます。
- 同じ操作を繰り返して、待ち受け受信したいチャンネル全てを登録します。

補足

待ち受け受信の登録をしたチャンネルは、もう一度 [CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを同時に押すと登録が解除され、画面の“■”が消えます。

■ 待ち受け受信をする

- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
 - ・待ち受け登録されている全てのチャンネルで信号の待ち受け受信がスタートします。
 - ・“MCW”が表示され“■”が点滅します。
- 信号を受信した時は受信したチャンネルで待ち受けが止まり、相手の話を聞くことができます。チャンネルが表示されている間に PTT（通話）スイッチを押すと送信することができます。

補足

一時的に待ち受け受信したくないチャンネルは、[ON▼] または [▲SET] ボタンを押してチャンネルを選び、チャンネルが表示されている間に [CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを同時に押すと、約 3 分間待ち受け受信の対象から外れます。3 分経過後、または同じ操作を繰り返すか一度電源を切ると、再び待ち受け受信の対象に戻ります。

■ 待ち受け受信中の送信チャンネルの変更

待ち受け受信中に PTT（通話）スイッチを押すと、前回信号を受信したチャンネルで送信しますが、他のチャンネルで送信することもできます。

◎ 待ち受け登録されているチャンネルから選ぶ

- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、送信したいチャンネルを選びます。
- チャンネル表示が“MCW”に変わる前に PTT（通話）スイッチを押すと、選んだチャンネルで送信します。

◎ あらかじめ決めたチャンネルで送信する

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“TXCH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。“TXCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“S-CH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“S-CH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、送信するチャンネルを選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ マルチチャンネル待ち受け受信をやめる

- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
マルチチャンネル待ち受け機能が OFF になります。

■ 2つのチャンネルを交互に受信する（デュアルレシーブ機能）

現在のチャンネルともう 1 つのチャンネルを交互に受信する機能で、もう 1 つのチャンネルで同じグループコードを含む信号を受信すると交信することができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“TXCH”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。“TXCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“DR”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
- 同様に下記の 2 項目を設定します。
S-CH → 現在のチャンネル以外に受信したいチャンネルを選択
S-GP → 相手と同じグループコードを選択
- PTT（通話）スイッチを押します。
- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
現在のチャンネル番号の右側に“DR”が点灯して、デュアルレシーブが動作します。
[ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、チャンネルを変えることができます（登録した待ち受け受信チャンネルのみ）。

◎ デュアルレシーブ機能をやめる

一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。デュアルレシーブ機能が OFF になります。

アラームで緊急を知らせる（エマージェンシー機能）

緊急時に最大音量で“ピーッ”とアラーム音を鳴らし続けて周囲に緊急事態を知らせます。

注意

- ・オートチャンネルセレクト機能が動作中は、エマージェンシー機能は動作しません。
- ・イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバー本体のスピーカーからアラームが鳴ります。

■ エマージェンシー機能を使うようにする

- 一度電源を切り、[CUE] ボタンと [▲SET] ボタン押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、“CU-EC”を選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ 緊急を知らせる

[CUE] ボタンを 1 秒以上押し続けます。
アラーム音が鳴り続け、画面の表示が点滅します。

補足

- ・PTT（通話）スイッチを押すとアラーム音を中断して通話することができます。
- ・[CUE] ボタンを 1 秒以上押すか、電源を切るとエマージェンシー機能の動作は停止します。

■ エマージェンシー機能の動作を変える

アラーム音と同時に自動で送信したり、LED インジケータを点滅させたり、また、緊急連絡用チャンネルに自動で移動することができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“EMGC”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。“EMGC”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押してエマージェンシー機能の動作を選びます。
ALAM：緊急アラーム音で緊急を知らせます。
CH：アラーム音は鳴らせずに、緊急連絡用チャンネルに自動で切り替わります。

～緊急連絡用チャンネルの設定方法～

緊急連絡用チャンネルにしたいチャンネルにあわせてから、上記 1. ～の操作を行うと、そのチャンネルが緊急連絡用チャンネルに設定されます。

CL：緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になります。
CL-LT：緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になり、LED インジケータを点滅表示させます。

- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

個別呼び出し機能

個別呼び出し機能では、次の 3 種類の呼び出しができます。

- ◎ 個別呼び出し
01 ～ 99 の中から、指定した ID に設定している局だけを呼び出します。
- ◎ グループ呼び出し
10 グループ（グループ ID G0 ～ G9）の中から、指定したグループ ID に設定している局だけを呼び出します。
- ◎ 全局一斉呼び出し（ALL）
全ての局を一斉に呼び出します。

補足

- ・あらかじめ仲間同士で、個別 ID やグループ ID を設定してください。
- ・電波の弱い場所やノイズの多い場所では、個別呼び出し機能が動作しない場合があります。

注意

個別呼び出しを使用中は、オートチャンネルセレクト機能やサブチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 個別呼び出しを使うようにする

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 SELC”の表示にします。“個 SELC”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、個別呼び出し機能で運用できる最大局数を選択します。
20：個別 ID “01” ～ “20” までの 20 局
99：個別 ID “01” ～ “99” までの 99 局
OFF：個別呼び出し機能は動作しません。
- PTT（通話）スイッチを押します。
画面に“個”が表示して個別呼び出し機能が動作します。

■ 自分の個別 ID やグループ ID を設定する

個別呼び出し機能で使用する「自分の個別 ID」と「自分のグループ ID」を設定します。

注意

あらかじめ、上記の“個別呼び出しを使うようにする”の操作で、“OFF”以外の設定にしてください。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 ID”または“個 GRP”の表示にします。

[ID]：自分の個別 ID を設定する時

[GRP]：自分のグループ ID を設定する時

- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して個別 ID またはグループ ID を選択します。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ 個別呼び出しをする

- [ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを同時に押します。
画面に“SCAL”が表示されます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、呼び出したい相手の個別 ID やグループ ID を選びます。
全ての局を一斉に呼び出したい時は“AL”を選びます。
- PTT（通話）スイッチを押します。
上記で選んだ相手を呼び出して、通常の画面に戻ります。

■ 個別呼び出しを受けた時の動作

個別呼び出しとグループ呼び出しの場合、画面にチャンネルと呼び出してきた相手の個別 ID またはグループ ID が交互に表示します。全局一斉呼び出しの場合は、画面表示はチャンネルのままで、着信音も鳴りません。

呼び出しを受けた後に PTT（通話）スイッチを押すと、通話することができます。

■ 個別呼び出しを受けた時に着信音を鳴らす

個別呼び出しを受けた時に、着信音を鳴らすことができます。

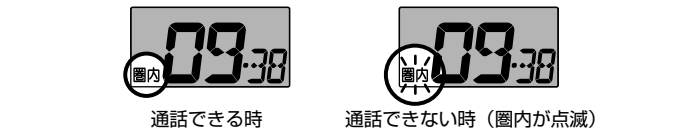
- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 BEEP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、着信音を選択します。
1 / 2 / 3：着信音が鳴るパターンを 3 種類から選べます。
ただし、ALL で呼ばれた時は着信音は鳴りません。
OFF：着信音は鳴りません。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

仲間と通話可能かを常にチェックする

■ コールバック機能

グループモード時にコールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。また、当社の中継器を使用した中継通話を行っているときは、中継エリア（通話エリア）内にいるかどうかを電子音とアイコン表示で確認できます（中継器側の通話エリアを判定する機能を“ON”にする必要があります）。

注意 コールバック機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。



- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“CLBK”の表示にします。
“CLBK”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“GRP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押して、続けて [▲SET] ボタンを押します。
- “GRCD”の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード（GP01～GP50）または DCS コード（D017～D754）にあわせて [CUE] ボタンを押します。
- PTT（通話）スイッチを押します。

コールバック機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

通話可能かどうかは、電子音とディスプレイの表示で確認できます。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能	圏外になった時に一度だけ“ブブッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

補足 ・同じチャンネルで同じグループコードや DCS コードが他の使用者に使われている時は、“グループモードの設定”を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り替えてください。
・他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態になり、通話できません。

■ コールバック機能をやめる

- 上記の手順 1～4 を行い、手順 4 で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
コールバック機能が OFF になります。

秘話機能

秘話機能を設定した仲間同士だけが通話内容を聞くことができます。秘話機能を設定していない人は、通話内容が聞き取りにくくなります。

注意 同じチャンネルで秘話機能を動作させていると、通話内容を聞かれる場合がありますのでご注意ください。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“秘 SCR”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“秘 SCR”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“1”“2”“3”のいずれかの表示にします。通話する仲間全員が同じ数字にあわせてください。
- PTT（通話）スイッチを押します。
画面に“秘”が表示して秘話機能が動作します。

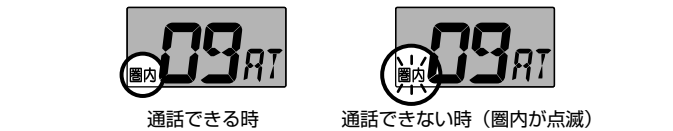
■ 秘話機能をやめる

- 上記と同じ操作を行い、手順 3 で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
秘話機能が OFF になります。

■ ARTS 機能

ARTS 機能用の 10 種類の DCS コードの中から、使用可能な DCS コードを自動的に選択して「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。

注意 ・ARTS 機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。
・ARTS 機能は、中継チャンネルでは動作しません。



仲間同士の全てのトランシーバーを同じチャンネルにあわせてから、全てのトランシーバーで以下の操作を行います。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ARTS”の表示にします。
“ARTS”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
ARTS 機能が ON になり、画面に“SYNC”が表示されます。
- いずれか 1 台の PTT（通話）スイッチを押します。
仲間の全てのトランシーバーが自動で使用可能な DCS コードに設定され、チャンネルの右側に“AT”が表示されます。

ARTS 機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能	圏外になった時に一度だけ“ブブッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

■ ARTS 機能をやめる

- 上記の手順 1～4 を行い、手順 4 で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
ARTS 機能が OFF になります。

補足 ・電源を切っても ARTS 機能は OFF になりません。次に電源を入れた時は、前回設定された DCS コードで ARTS 機能が動作します。
・仲間を追加する時は、上記の“ARTS 機能をやめる”の操作を行い手順 4 で一度 OFF にした後続けて ON にします。その後手順 5 では PTT（通話）スイッチを押した後 **1 秒以内** に [▲SET] を押してください。

PTT ホールド機能 / 受信専用モード（送信を禁止する）

◎ PTT ホールド機能

一度 PTT（通話）スイッチを押すと、再び押すまで送信状態を維持します。

◎ 受信専用モード（送信を禁止する）

送信を禁止して受信専用にできます。PTT（通話）スイッチを押しても“ERR”が表示され「ブーブー」と警告音が鳴り送信できません。

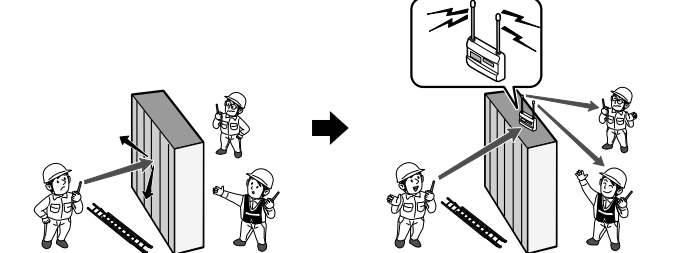
- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“PTT”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“HOLD”または“OFF”の表示にします。
NOR : PTT スwitchを押している間送信状態になります。
HOLD : 一度 PTT スwitchを押すと、再び PTT スwitchを押すまで送信状態を続けます（PTT ホールド機能）。
OFF : PTT スwitchが無効になり送信できません（受信専用モード）。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

補足 連続して 3 分間送信すると、送信が自動的に停止します。送信が停止する 30 秒前から画面にカウントダウンが表示されます。また、送信が停止する 10 秒前に「ビビッ」と警告音が鳴ります。

通話エリアを拡大する（中継器対応）

通話相手との間にビルなどの障害物がある場合や相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できない時は、本機対応の中継器を中間点に設置することで、通話エリアを広げることができます。

使用できる中継器については、本機を購入した販売店、または当社国内営業部にお問い合わせください。



注意 中継チャンネル使用中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 中継機能を使えるようにする

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“RPCH”の表示にします。
“RPCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
中継機能用のチャンネル（10～18、12～29）が使えるようになります。



■ 通話のしかた

- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して、中継器と同じチャンネル番号にあわせます。
- “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

補足 ・グループモードを使用することができます（中継器と同じグループ番号にあわせます）。
・当社指定の中継器のみ使用可能です。

■ 中継器を使わない設定に戻す

- 上記の「中継器を使えるようにする」と同じ操作を行い、手順 4 で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
以上で、中継器を使わない（中継器用のチャンネルを表示しない）ようになります。

■ ファスト接続機能

中継通話を行う時に、PTT（通話）スイッチを押してから、中継器が中継動作を開始して通話ができるようになるまでの時間を短縮することができます。

注意 中継器の“ファスト接続機能”も“ON”にする必要があります。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“RCP”の表示にします。
“RCP”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“QK”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
ファスト機能が ON になります。
- 通常どおり子機の PTT（通話）ボタンを押して通話をします。

モニター機能

相手の電波が弱くて音声が届かずに聞こえる場合“モニター機能”を使用すると、相手の音声が届きやすくなる場合があります。

- 一度電源を切り、[○▼] と [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
・モニター機能が動作します。
・信号が無い時は常に“ザー”という雑音が聞こえます。
- 電源を切るとモニター機能は解除されます。

[CUE] ボタンの機能を変える

[CUE] ボタンには、緊急連絡や重要な用件の通知を行う“CUE 機能”が割り当てられていますが、その他の機能に変更することができます。

- 一度電源を切り、[CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して、割り当てたい機能の表示にします。

表示	機能	
	短押し	長押し
	2 回続けて短押しすると CUE 緊急信号を受信した時に鳴るアラーム音を一時的に鳴らないようにできます。	「ビビッ」と電子音が鳴るまで押し続けると CUE 緊急信号を送出して、グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして緊急連絡を通知します。
	DCS コードを設定している場合、呼び出し音を鳴らして相手を呼び出します。	エマージェンシー機能が動作し、アラーム音を鳴らして緊急事態を知らせます。
	相手の電波が弱く音声が届かずに聞こえる場合、[CUE] ボタンを押している間、相手の音声が届きやすくなる場合があります。信号が無い時は“ザー”という雑音が聞こえます。同時に信号強度を表示します（S メーター）。	
	受信中の音声を約 3 分間ミュート（消音）します。	[CUE] ボタンを押すまで受信中の音声をミュート（消音）し続けます。
	VOX 機能を一時的に ON/OFF します。 あらかじめセットモード“VOX”を ON にしてください。[CUE] ボタンを押して OFF にすると“ー”が表示されます。	長押しで動作する機能はありません
	“PA（拡声器）機能”に対応している当社の中継器を使用しているときに押しながら話すと、中継器本体のスピーカーから音声を出力します。	
	マルチチャンネル待受受信時に、あらかじめ決めておいたチャンネル（セットモード“S-CH”で設定したチャンネル）で送信します。	
	コールサイン（電子音）を送出します。 電子音をセットモード“CLSG”で設定した回数鳴らして相手を呼び出します。	

- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

信号を探す（スキャン機能）

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。グループモード使用時は、同じグループコードを含む信号を探します。信号を受信するとスキャンが一時停止します。また、信号がなくなると約 10 秒後に再びスキャンを開始します。

注意 スキャン機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は“OFF”になります。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“SCAN”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“SCAN”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [○▼] または [▲SET] ボタンを押して“ON”の表示にします。
ON : スキャン機能を ON にします。
OFF : スキャン機能を OFF にします。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ スキャンを開始する

[○▼] ボタンを 1 秒以上押す：チャンネル番号の小さい方向にスキャン
[▲SET] ボタンを 1 秒以上押す：チャンネル番号の大きい方向にスキャン

補足 ・中継機能用チャンネルでスキャンを開始すると、中継機能用チャンネルだけをスキャンします。通常チャンネルでスキャンを開始すると、通常チャンネルだけをスキャンします。
・スキャン中に [○▼] または [▲SET] ボタンを押すと、スキャンする方向が変わります。

■ スキャンをやめる

PTT（通話）スイッチまたは [CUE] ボタンを押すとスキャンが停止します。

STR STANDARD HORIZON

SRS 220A SRS 210A SR 200A

EN011U075 (2111L-DC)

- ① [ SET] ボタンを押しながら電源を入れ、[ ▼] または [ SET] ボタンで変更する機能を選び、[CUE] ボタンを押します。
- ② 次に [ ▼] または [ SET] ボタンで変更したい内容を選び、[CUE] ボタンを押して確定します。
- ③ PTT（通話）スイッチを押すと設定が完了してチャンネル表示画面に戻ります。

項目	機能	選択可能な項目 (太字は出荷時の設定)
 	グループ機能の ON/OFF “ON” にすると、グループコードが一致した場合のみ音声聞こえるようになります。他のグループの通話が聞こえてわずらわしい時に使用します。	ON / OFF
 	グループコード 同じグループコードが設定された信号以外の音声は聞こえなくなります。	GP01 ～ GP50 D017 ～ D754
 	ビープレベル トランシーバーの操作を行った時に鳴るビープ音の音量を調節します。 1 / 2 / 3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。 L1 / L2 / L3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。また音量ツマミに連動してビープの音量が変わります。 OFF : ビープ音は鳴らなくなります。	OFF / 1 / 2 / 3 / L1 / L2 / L3
 	画面表示の設定 ON : 常に画面は表示された状態になります。 2 : トランシーバーの操作が終わってから約 2 秒後に画面の表示が “—” になります。トランシーバーの操作を行うと再び画面が表示されます。	ON / 2
 	バックライトの ON/OFF 2 : 各ボタンを押すと画面の照明ランプが約 2 秒間点灯します。 OFF : 照明ランプが点灯しなくなります。	OFF / 2
 	PTT（通話）スイッチの動作設定 NOR : PTT スwitchを押している間送信状態になります。 HOLD : 一度 PTT スwitchを押すと、再び PTT スwitchを押すまで送信状態を続けます。 OFF : PTT スwitchが無効になり、送信できません。	OFF / NOR / HOLD
 	送信開始 / 終了ビープ音の ON/OFF END : 送信を終了した時に “ブッ” というビープ音を鳴らします。 STRT : 送信を開始した時に “ビッ” というビープ音を鳴らします。 BOTH : 送信を開始した時と終了した時にビープ音を鳴らします。 OFF : ビープ音は鳴りません。	OFF / END / STRT / BOTH
 	マイク感度 マイクの感度を調節します。設定値が大きくなるほど感度が上がります。	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6
 	セットモード拡張表示 EASY : “GRP” ～ “SETM” の項目のみ表示されます。 ALL : 下記の “ARTS” 以降の項目も表示されて設定することができます。 下記の “ARTS” 以降の項目は、ここの設定を “ALL” にすると表示されます。	EASY / ALL

 	ARTS 機能の ON/OFF “ON” にすると、相手と通話可能な状態かを自動で確認します。	ON / OFF
 	コールバック機能の ON/OFF “ON” にすると、相手と通話可能な状態かをビープ音と画面の表示で確認できます。 コールバック機能を使用する時は、グループ機能 (GRp) を “ON” にしてください。	ON / OFF
 	スキャン機能の ON/OFF ON : [ ▼] または [ SET] ボタンを約 1 秒以上押すと、チャンネルが自動で変わり続け、信号のあるチャンネルで停止します。 OFF : [ ▼] または [ SET] ボタンを押している間だけ、チャンネルが自動で変わり続けます。	ON / OFF
 	オートパワーオフ 一定時間何も操作を行わないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源が切れます。 2H/8H : 約 2 時間 (2H の場合) または約 8 時間 (8H の場合) 経過すると、自動で電源が切れます。 OFF : 自動で電源は切れません。	OFF / 2H / 8H
 	LED インジケータの ON/OFF “OFF” にすると、LED インジケータが点灯しなくなります。	ON / OFF
 	コンバンダ機能の ON/OFF “ON” にすると、相手が話している時に聞こえる「サー」というバックノイズを低減し、相手の声を聞き取りやすくします。相手のトランシーバーもコンバンダー機能を “ON” にしてください。	ON / OFF
 	エマージェンシー機能の動作設定 ALAM : アラームを鳴らして緊急を知らせます。 CH : 緊急連絡用のチャンネルに切り替わります。 CL : アラームを鳴らすと同時に、自動で送信状態になります。 CL-LT : アラームを鳴らすと同時に、自動で送信状態になり、LED インジケータが点滅します。	ALAM / CH / CL / CL-LT

項目	機能	選択可能な項目 (太字は出荷時の設定)
 	チャンネル番号表示方法設定 NOR : 01 ～ 11、1 ～ 9 (通常通話用チャンネル)、12 ～ 29、10 ～ 18 (中継用チャンネル) で表示します。 CMN : 01 ～ 20 (通常通話用チャンネル)、01 ～ 27 (中継用チャンネル) の連続した番号で表示します。	NOR / CMN
 	中継器用チャンネルの ON/OFF OFF : 中継専用のチャンネルは表示されません (中継器を使用できません)。 ON : 中継専用のチャンネルが表示されるようになります (中継器を使用できます)。	ON / OFF
 	“RPCH” の設定が “ON” の時に表示されます。	1 / 10
 	送信出力の切替 (12 チャンネル～ 29 チャンネルのみ有効です) 10 : 送信出力が 10mW になります。連続して送信できる時間は 3 分間です。 1 : 送信出力が 1mW になります。時間制限なく連続送信できます。 ファスト接続機能の ON/OFF 当社のファスト機能対応中継器を使用して中継通話を行う時、中継器との接続時間を短縮できます。中継器側のファスト機能も “ON” にする必要があります。 NOR: ファスト機能を使用しないで中継通話を行います。 QK : ファスト機能が動作して、中継器との接続時間を短縮できます。	NOR / QK
 	個別呼び出し機能の ON/OFF と運用できる最大局数 20 : 個別コード “01” ～ “20” までの 20 局 99 : 個別コード “01” ～ “99” までの 99 局 OFF : 個別呼び出し機能は動作しません。	OFF / 20 / 99
 	個別呼び出し機能運用時の個別コードの設定 自分の呼び出し ID 番号を選択します。	01 ～ 20 または 01 ～ 99 (上記 SELC の設定による)
 	“SELC” の設定が “OFF” 以外の時に表示されます。	G0 / G1 / G2 / G3 / G4 / G5 / G6 / G7 / G8 / G9
 	個別呼び出し機能運用時の着信音の設定 1 / 2 / 3 : 着信音が鳴るパターンを 3 種類から選べます。ALL で呼ばれた時は、着信音は鳴りません。 OFF : 着信音は鳴らなくなります。	1 / 2 / 3 / OFF
 	オートチャンネルセレクト機能 “ON” にすると、PTT (通話) スwitchを押した時に、使用されていないチャンネルを自動で探して相手局と交信できます。	ON / OFF
 	スケルチレベル 信号が入感していない時の耳障りな「ザーツ」というノイズを消します。数値が大きくなるほどノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感なくなることがあります。	1 / 2 / 3 / 4
 	[CUE] ボタンの動作が CU-CS の時に表示されます。	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6
 	バッテリータイプ 電池の残容量を正確に表示するために、使用中の電池の種類を設定します。 NI : オプションのニッケル水素電池 “SBR-17MH” を使う場合 AL : アルカリ乾電池を使う場合 AUTO : オプションのニッケル水素電池 “SBR-17MH” とアルカリ乾電池を自動で識別します。	NI / AL / AUTO
 	外部マイク感度 SP/MIC 端子に接続したオプションのタイピンマイク、ヘッドセット、スピーカーマイクの感度を調節します。 =MG : トランシーバー本体のマイク感度 (MICG) と同じ感度になります。 1 ～ 6 : 数値が大きくなるほど感度が上がります。	=MG / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6
 	サブチャンネルセレクト機能の ON/OFF “ON” にすると、送信しようとしたチャンネルが使用中の場合、あらかじめ決めておいた他のチャンネル (サブチャンネル) に自動で切り替わります。	ON / OFF
 	サブチャンネルの設定 サブチャンネルセレクト機能で使用するサブチャンネル、またはマルチチャンネル待ち受け機能時に送信するチャンネルを選択します。	1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 01 ～ 11
 	グループコードの設定 サブチャンネルセレクト機能で使用するグループコードを選択します。	GP01 ～ GP50 D017 ～ D754
 	スピーカー断線検出機能の ON/OFF “ON” にすると、トランシーバー本体のスピーカーや SP/MIC 端子に接続したオプション類のスピーカーが断線している場合、電源を入れると “SP-ER” を画面に表示して LED インジケータがオレンジ色で点滅します。	ON / OFF
 	秘話機能の ON/OFF 1 / 2 / 3 : 秘話機能を設定していない (同じ数字にあわせていない) トランシーバーでは通話内容を聞き取りにくくなります。同じチャンネルで秘話機能を動作させていると、通話内容を聞かれる場合があります。 OFF : 秘話機能は動作しません。	OFF / 1 / 2 / 3

項目	機能	選択可能な項目 (太字は出荷時の設定)
 	Bluetooth® 機能の ON/OFF Bluetooth® ヘッドセットを使用する機能を ON/OFF します。 ON : Bluetooth® 機能が動作し Bluetooth® ヘッドセットを使用できます。 OFF : Bluetooth® 機能は動作しません。 SAVE : Bluetooth® 機能が動作し、更に Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくすることができます。	OFF / ON / SAVE
 	“BLTH” の設定が “ON” または “SAVE” の時に表示されます。	Bluetooth® マイク感度 Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節します。 =MG : トランシーバー本体のマイク感度 (MICG) と同じ感度になります。 1 ～ 6 : 数値が大きくなるほど感度が上がります。
 	Bluetooth® メモリクリア “CLR” を選んで PTT (通話) スwitchを押すと、既にペアリングしてある Bluetooth® ヘッドセットの情報を消去します。	=MG / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 KEEP / CLR
 	VOX 機能の ON/OFF と感度調整 PTT (通話) スwitchを押さなくても、話を始めると自動的に送信状態になり、話をやめると自動的に受信状態に戻る VOX 機能を ON/OFF します。VOX 機能はトランシーバー本体のマイクおよび Bluetooth® ヘッドセット SSM-BT10 でのみ動作します。 1 ～ 7 : VOX 機能が動作します。“1” ～ “7” の数字は送信状態になる感度で、周囲の騒音が大きく話をしていないのに送信状態になる時は感度を下げて (設定の数値を小さく) ください。 OFF : VOX 機能は動作しません。	OFF / 1 ～ 7
 	“VOX” の設定が “OFF” 以外の時に表示されます。	VOX 遅延時間 VOX 機能動作時、話をやめてから受信状態に戻るまでの時間を設定します。 数値を大きくするほど受信状態に戻るまでの時間が長くなります。
 	スーパーバッテリーセーブ機能の ON/OFF “ON” にすると、送信も受信もしていない時にバッテリーの消費を更に抑えてバッテリーを長持ちさせます。	ON / OFF
 	バッテリー低電圧警告機能 ON : 電池が消耗して電池マークが点滅表示されると、約 10 分毎にビープ音を鳴らします。 OFF : 電池が消耗しても、警告は行いません。	ON / OFF
 	CUE アラーム音の設定 CUE 信号を受信した時に鳴るアラーム音のパターンを A、B、C の 3 種類から選べます。 SP A / SP B / SP C : 常にスピーカーからアラームが鳴ります。イヤホンやヘッドセットからはアラームは鳴りません。 A / B / C : スピーカーまたはイヤホンやヘッドセットからアラームが鳴ります。	SP A / SP B / SP C / A / B / C
 	CUE アラーム音量設定 CUE 信号を受信した時のアラームの音量を設定します。 1 / 2 / 3 : 数値が大きくなるほど音量が大きくなります。 OFF : アラーム音は鳴らなくなります。	OFF / 1 / 2 / 3
 	CUE 受信時の LED 設定 CUE 信号を受信した時の、LED インジケータの点灯 / 点滅の状態を設定します。 1 : 点灯します。 2 / 3 / 4 / 5 : 点滅します。点滅のしかたが異なる 4 種類から選べます。 OFF : 点灯や点滅はしなくなります。	OFF / 1 / 2 / 3 / 4 / 5
 	マルチチャンネル待ち受け機能時のスキップタイム 一時的に待ち受け受信の対象を外した時、再び待ち受け受信の対象になる条件を設定します。 3MIN : 3 分経過するか電源を切るまで待ち受け受信対象から外れます。3 分経過するか再び電源を入れると待ち受け受信の対象に戻ります。 POFF : 電源を切るまで待ち受け受信の対象から外れます。再び電源を入れると待ち受け受信の対象に戻ります。	3MIN / POFF
 	マルチチャンネル待受受信時の送信チャンネル LSTB : 最後に通話または表示したチャンネルで送信します。 S-CH : サブチャンネルの設定 (S-CH) で設定したチャンネルで送信します。 DR : 表示されているチャンネルとサブチャンネルの設定 (S-CH) で選択したチャンネルを交互に受信する “デュアルレシーブ機能” が動作します (相手と同じグループコードを S-GP に設定してください)。	LSTB / S-CH / DR
 	秘話機能が動作しているときは表示されません。	音質切替 NOR : 標準的な音質になります。 HIGH : 高域が強調された音質になります。

設定を他のトランシーバーにコピーする (クローン機能)

設定した内容を、ワイヤレスで他の複数台のトランシーバー※に一斉コピーできます。

※ SRS220**■** /SRS210**■** /SR200**■** /SRS220S**■** /SRS210S**■**



- 注意**
- ・雑音の多い場所でクローン機能を実行した場合、正常にコピーできない場合があります。
 - ・送り側と受け側を 1m 以内に近づけてクローン機能を実行してください。
 - ・クローンを数回行っても正常にコピーされない場合は、当社国内営業部（電話：03-6711-4055）にお問い合わせください。

■ クローンの準備をする

送り側（クローン元）と受け側（クローン先）の全てのトランシーバーに以下の操作を行います。

1. 電源を切ります。
2. [CUE] ボタンと [**▲** SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
3. [CUE] ボタンを長押しします。
画面に“CLON”が表示されます。



■ クローンを行う

◎ 送り側（クローン元）

PTT（通話）スイッチを押します。

画面に“CL-TX”が表示されて、設定データを送出します。



◎ 受け側（クローン先）

操作は不要です。

送り側が送出した設定データを受信すると画面に“CL-RX”が表示されて、設定内容が正常にコピーされると「ピッ」と音が鳴り、通常の画面に戻ります。



補足 通常の画面に戻らずに「ププッ」と音が鳴り“CLONE”の表示画面に戻った時は、初めからやり直してください。

クローンを終了する時は、送り側と受け側の電源を切ります。

正常に動かない時（オールリセット）

ボタンを押しても反応しない時や、「故障かな？と思うまえに・・・」の項目に従って点検しても正常に動作しない時は、次の操作で本機をオールリセットしてください。

注意 オールリセットを行うと、登録および設定した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。

1. 電源を切ります。
2. [**on** **▼**]/[CUE]/[**▲** SET] のボタンを同時に押しながら電源を入れます。
3. 「ピッ」と鳴り、オールリセットは終了します。

故障かな？と思うまえに・・・

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

- ◎ 電源が入らない！
 - ・電池は正しく入れてありますか？
 - ・電池が消耗していませんか？
- ◎ 送信できない！
 - ・PTT（通話）スイッチを正しく押していますか？
 - ・送信禁止機能が ON になっていませんか？
 - ・相手が話中ではありませんか？
 - ・信号を受信して LED インジケータが緑色に点灯している時は送信できません。
 - ・外部マイク使用の場合、接続部分をきちんと最後まで締めこまれていますか？
- ◎ 通話できない！
 - ・相手と同じ通話モード（ノーマルモード、グループモード）に設定していますか？
 - ・相手と同じチャンネルに設定していますか？
 - ・相手と同じグループ番号に設定していますか？
 - ・相手との距離が離れすぎていませんか？
- ◎ 勝手に電源が切れる！
 - ・オートパワーオフ機能が設定されていませんか？
 - ・電池が消耗していませんか？
- ◎ グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！
 - ・モニター機能になっていませんか？
一度電源を切り、再度電源を入れると解除されます。
 - ・他の人も同じグループコードや DCS コードを使用している場合があります。
グループコード、DCS コードを変えてください。
- ◎ CUE 機能、個別呼び出し機能、クローン機能が動作しない！
SRS220**■**などの**■**シリーズと旧機種 SRS220/SRS210/SR200 との間では動作しない場合があります。旧機種のソフトウェアのアップデートを行うことにより**■**シリーズとの互換性を持たせることができますので、必要な場合は当社国内営業部（電話：03-6711-4055）にお問い合わせください。

オプション

- ◎ Bluetooth® ヘッドセット.....SSM-BT10
- ◎ ニッケル水素電池.....SBR-17MH
- ◎ 急速充電器（AC アダプタ付属）.....SAD-3915A
- ◎ 連結型充電器（AC アダプタ SAD-50A が必要です）.....SBH-40
- ◎ 連結型充電器用 AC アダプタSAD-50A
- ◎ 工事ヘルメット用ヘッドセットSSM-60H*
- ◎ インターコム型ヘッドセットSSM-68H*
※：PTT ケーブル SCU-11 を接続して本体に装着します。
- ◎ PTT ケーブル.....SCU-11
- ◎ VOX ヘッドセットSSM-64A
- ◎ 小型タイピンマイク&イヤホン（ストレートコードタイプ）
 - 耳かけ式オープンエア型.....SSM-59ASA
 - オープンエア型.....SSM-59BSA
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SSM-59CSA
 - カナル型.....SSM-59DSA
- ◎ 小型タイピンマイク&イヤホン（カールコードタイプ）
 - 耳かけ式オープンエア型.....SSM-59ACA
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SSM-59CCA
- ◎ 小型タイピンマイク（耳かけイヤホンタイプ）.....MH-381A4B
- ◎ 小型タイピンマイク&イヤホン（イヤホン交換が可能）
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SSM-58ASA
 - 耳かけ式カナル型（イヤホン：ブラック）.....SSM-58BTA
 - 耳かけ式カナル型（イヤホン：グレー）.....SSM-58CTA
- ◎ 小型タイピンマイク（耳かけイヤホンタイプ）.....EK-313-107
- ◎ 防浸型スピーカーマイク.....MH-73A4B
- ◎ スピーカーマイク.....SSM-17H
- ◎ ブームマイクイヤホン（耳かけイヤホンタイプ）.....SSM-510SA
- ◎ イヤホン（ストレートコードタイプ）
 - 耳かけ式オープンエア型.....SEP-41ASA
 - オープンエア型.....SEP-41BSA
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SEP-41CSA
 - カナル型.....SEP-41DSA
- ◎ イヤホン（カールコードタイプ）
 - 耳かけ式オープンエア型.....SEP-41ACA
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SEP-41CCA
- ◎ イヤホン（SSM-58 用交換イヤホン）
 - 耳かけ式大型オープンエア型.....SEP-42ATH
 - 耳かけ式カナル型（ブラック）.....SEP-42BTH
 - 耳かけ式カナル型（グレー）.....SEP-42CTH
- ◎ イヤホンアダプタ（φ 3.5mm ミニプラグイヤホン接続用）... SCU-12
- ◎ キャリングケース.....SHC-39
- ◎ ワンタッチリリースホルスター.....SHB-22

定格

送受信周波数（12.5kHz ステップ）

交互通話（単信）
1ch ～ 9ch：422.2000MHz ～ 422.3000MHz
01ch ～ 11ch：422.0500MHz ～ 422.1750MHz
中継装置使用時（半複信）
10ch ～ 18ch：送信 440.2625MHz ～ 440.3625MHz
受信 421.8125MHz ～ 421.9125MHz
12ch ～ 29ch：送信 440.0250MHz ～ 440.2375MHz
受信 421.5750MHz ～ 421.7875MHz

電波型式：F3E、F2D
通信方式：単信方式および半複信方式
送信出力：10mW 以下
受信感度：－ 13dBμV 以下（@ 12dB SINAD）
低周波出力：60mW 以上（@4 Ω、10% 歪時）電源電圧 1.5V 時
動作温度範囲：－ 10℃～+ 50℃
定格電圧：DC 1.2V（動作範囲 0.95V ～ 1.7V）
本体寸法：約 47 × 80 × 22mm
（幅×高さ×奥行き：アンテナおよび突起部を含みます）
本体重量：約 88g（SRS210**■**）（電池、ベルトクリップを除く）
約 89g（SRS220**■**）（電池、ベルトクリップを除く）
約 88g（SR200**■**）（電池、ベルトクリップを除く）
約 85g（SRS210S**■**）（電池、ベルトクリップを除く）
約 86g（SRS220S**■**）（電池、ベルトクリップを除く）

※この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。
※ RoHS 指令準拠

アフターサービス

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店にご相談ください。製品に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社国内営業部までお願いします。

八重洲無線株式会社

〒140-0002

東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル

TEL：03-6711-4055

- ◎ 保証期間はお買い上げの日より 1 年間です。
本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から 1 年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。
過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。
- ◎ 保証書は大切に保管してください。
保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。
また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。